

[第858回ゼミ報告] 2023年5月19日号

アメリカ男 80 歳、日本男 65 歳、ドイツ男 64 歳、カナダ男 51 歳、イタリア女 46 歳、フランス男 45 歳、イギリス男 43 歳：G7 面々の男女・年齢  
5月10日のゼミは、柄谷行人『力と交換様式』第1部第3章「交換様式Cと力」を小野さんの報告で行いました。CはBと同時に共同体と共同体の交換から始まるが、遊動的段階では交換を必要せず。他者との交換には信用が必要で、両者を拘束するのが「力」、交換が広がると社会が拡大し変容する。そこに国家がBとCに結びつき発展する。Cの拡大は貨幣経済の拡大であり、貨幣の力に付着は「霊」の力、市場の力である。貴金属としての貨幣は国家による保証、貨幣が肯定的に見られたのは商人資本主義の段階である。古代社会でもフェニキア人のように国家が商業に専念し、CよりBの発展に寄与した。交換＝交通の発展で軍力は交易を補助し、Bが拡大し世界帝国が実現し、Cがそれ以上の発展を抑えた。帝国は法に基づく政治形態で社会正義の擁護者となった。それは都市国家が帝国に発展していった過程であるが、貨幣の急進的平等主義が民族的共同体を破壊し、急激な富の不平等化をもたらした。帝国主義は宗教で普遍主義と一神教として現れた。マルクスは下部構造の決定を重視したのに対して、柄谷は上部構造の反作用を重視した。

討論では、交換様式Cは、必ずしも資本主義時代としていない。下部構造として交換様式の「力」を論じているが、前著ではそこまでは言っていなかった。マルクスは下部構造としての生産様式から説いている、ということがあがるが、下部構造が決定をするとはしていない。それでは「力」とは何か。交換様式をA・B・Cとするが、それぞれが別の時代ではなく、それぞれが主流となっているものを論じる。Aだけの時代から、ABCの3つがあるが、Bが主力の時代、Cが主力の時代には「帝国」を論じる。B+Cはオリエントで、帝国はB+Cで結びついている。交換と信用はどうか。AからBでも信用が問題となるが、Cでは不可欠である。人類の時代の流れでは、家族間から共同体へ、さらに共同体と共同体との関係が問題となる。商品の流通は共同体を崩していくのではないか。

会場参加は小野さん・松村さん、川口さん・山口さん・高田、オンライン参加は斎藤さん・竹内さん・後藤さんの8名でした。

\* 5月24日(第4週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 875 0593 7848 パスワード: 065260

\*訂正: 前号の4月26日ゼミ: 正「第857回」←誤「第856回」

\*\*\*\*\* ゼミ日程 \*\*\*\*\*

- 5月24日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
斎藤幸平『ゼロからの『資本論』』第3章 イノベーション・・・報告: 後藤さん  
6月14日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
柄谷行人『力と交換様式』第1部第4章 交換様式Dと力 報告: 後藤さん  
6月28日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
斎藤幸平『ゼロからの『資本論』』第4章 緑の資本主義・・・報告者未定  
その後 7/12, 7/26 [アイクルの部屋]